

～船から見る景色は格別。神田川クルーズ～

気温 32℃ (5月にしては暑すぎ…!) 晴れ女と晴れ男が25名も集合した結果(?!)

それでは、只今より、日本橋兜町界隈を散策し、ランチの後、クルーズにご案内致しま～す。

★…「日本橋」

関ヶ原の戦いの後、1603年に木製の橋が架けられ、日本の中心、江戸の繁栄の象徴となりました。明治になり、この橋の中央が、国内諸街道の起点に定められ「日本国道路元標」が、埋め込まれました。1911年(明治44年)アーチ型の石橋に架け替えられました。

★…「日本橋魚河岸発祥の地」

関東大震災で焼失するまで、この地に魚河岸がありました。

★…「日本橋歴史展示ギャラリー」

江戸橋にあった三菱の倉庫で、江戸から東京へと変遷していく様子が、パネルで展示されています。

江戸に最初にできたのが、日本橋の町々。堀の開削と埋め立てにより、水路が縦横に走り、なかでも日本橋川は主要な河川でした。大きな船から小さい船に荷を積み替え、川べりで荷揚げがされました。

明治に入り、江戸は東京となり、日本の首都に。商人の町であった日本橋は、金融の街へと変貌を遂げました。

★…「兜神社」

兜町の鎮守であり、証券界の守り神。平安時代後期の武将・源義家が境内に在る岩に、戦の勝利を祈願して兜を掛けたという説があり、町名の由来になっています。

★…「日証館」

1923年(大正12年)の関東大震災で焼失した、渋沢栄一邸の跡地に建つオフィスビル。震災後の耐震・耐火で設計された、昭和初期の名建築。連結するアーチ型の入口や窓が美しい。

★…「東京証券取引所」

NYのウォール街や、ロンドン・シティと並び、世界三大金融街。もっと活気がある街かと想像していましたが、実際は静かでずっしりとした空気が流れていました。1999年(平成11年)株券の電子化やインターネットの取引により、立会場は閉鎖。魚市場の「せり」のような人の手のサインによる売買はなくなり、電光掲示板が株価を伝えています。

★…「鎧橋」

茅場町と小網町を結ぶ渡しがあった所。源義家が奥州征伐に行く折、暴風雨で川を渡れず、着ていた鎧を投じて龍神に祈り、ようやく渡れた…という伝説あり。

★…「KABUTO ONE」

渋沢栄一ゆかりの「佐渡の赤石」が鎮座。渋沢が日本経済の発展を祈念して、佐渡から運んだ巨大な縁起石。渋沢が終生大事にしていた…と言われています。

★…(ランチタイム)

コレド日本橋の中華「盤古殿」にて。腹ペこに、どのメニューも魅惑的すぎて迷う(笑)。ここで既に、生ビールに走った方、数名。乾いた喉に、最高でしたでしょう…ね!

★…「神田川クルーズ」

日本橋のたもとの船着場から、歴史を辿るタイムトラベルへ。定員44名。満員御礼! 首都高の真下を進む、独特の雰囲気漂う水路。この首都高も、2040年までに地下化されるため、すでに工事が始まっています。



常盤橋付近で、江戸城外堀の刻印石垣が見られます。東京ドームの白い屋根が見える辺りで右に曲がり、神田川へ。水面を吹き抜ける心地よい風を浴びつつ、お茶の水溪谷、秋葉原の電気街を眺め、「水道橋」「聖





橋「万世橋」をくぐり、墨田川へ。川幅が広くなり、風が強く、少し揺れる船。

川岸には、多くの船宿。スカイツリーも、バッチリです。「両国橋」「清洲橋」を経て、日本橋川へ。午前中見学した「鎧橋」「江戸橋」の下をくぐり、出発地点へ戻って来ました。

360度見晴らしがきく「オープン船」による、素晴らしい臨場感。ガイドさんの説明で、かつての面影、いまの様子を、すっかり満喫。あつという間の一時間半の旅でした。

暑い中、皆様、本当にありがとうございました。大勢ご参加くださったことに、心から感謝いたします！！

<報告：関根悦子>